

# 会 議 録

## 1 会議名

令和4年度第6回有田区地域協議会

## 2 議題（公開・非公開の別）

### 【協議事項】

- ・地域活性化の方向性について（公開）

## 3 開催日時

令和4年12月5日（月）午後6時30分から午後7時14分

## 4 開催場所

上越市カルチャーセンター ミーティングルーム

## 5 傍聴人の数

0人

## 6 非公開の理由

—

## 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 熊木敏夫（会長）、樺沢早苗（副会長）、池田憲雄、牛木幸一、  
内山幸一、荻原慶一、栗間良子、高橋・夫、長谷川陽一、平井弘一郎、  
藤井英夫、渡辺恵子、渡邊瑞穂（欠席者4名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：中村センター長、小川係長、千田主任

## 8 発言の内容

### 【中村センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

### 【熊木会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：渡邊瑞穂委員、牛木委員に依頼

議題【協議事項】地域活性化の方向性について、事務局へ説明を求める。

### 【小川係長】

- ・資料No.1「有田区の地域活性化の方向性についてこれまで出された意見」及び、資料No.2「「地域活性化の方向性」の検討について」に基づき説明

本日は、まず、前回欠席された委員より、地域の魅力や特性、次世代へ残していきたいものを「どうしていきたいか」について意見を伺いたい。その後、今後の検討の進め方を協議いただきたい。

**【熊木会長】**

前回の欠席委員に意見を求める。

**【渡邊瑞穂委員】**

就学前の子どもがいる父親に地元出身ではない人が割といる。コロナ禍で職場での繋がりもないので、父親同士の繋がりがあつたらよいと思う。現状、どうしたいか具体的な案は無いが、有田区としても取り組んでいけたら良いと思う。

**【熊木会長】**

資料No.1や今ほどの意見を踏まえて、意見、質問等を求める。

**【小川係長】**

資料No.1が、これまでいただいた意見の羅列であり、わかりづらい部分があるので、もう少し区分を分けて整理したいと思う。

**【熊木会長】**

区分を分けて綺麗に整理したものを、今月中に間に合えば、紙で各委員に配ってもらえないか。今、意見を落とし込んでもらったが、具体的に我々がこれをどうするか方向性を出すには、まとまっていないと混乱するので整理していただきたい。

また、協議の後、有田区の方向性や意見を市ではどこの部署が引き上げるのか。

**【小川係長】**

地域活性化の方向性の提出先は、自治・地域振興課である。

**【熊木会長】**

具体的に自治・地域振興課では、どういう方向でいこうかというプランを持っているのか。

**【小川係長】**

28区で検討していただいている、地域活性化の方向性を踏まえて、各区で活性化に向けてどのように取り組んでいくかを検討していただくことになる。

**【熊木会長】**

それはわかるが、聞いてもらいたいのは、この意見を受けてそのあと物事をやるには予算が要る。これを我々の団体が出せるのかということになると、我々ができないとなったら、何を協議しなくてはいけないのか。それをよその団体に依頼するのもいかなものか。その辺はどうなるのか。市からそういう方向性がいいですよと言ってきた際は、我々の方である団体にやってもらえませんかという声掛けをすることになるのか。

**【小川係長】**

地域協議会と地域の団体と連携して、地域独自の予算で提案したり、市の協力が必要であれば、市に意見をあげていくことになる。

**【熊木会長】**

この意見が、具体的に反映するのに我々が動かないと反映しないということになると、我々が予算を執行できないというのもおかしな話だと思う。その辺を自治・地域振興課はどのように考えているのか。そこまで考えていないのか、意見集約なのか。そこがはっきりしないと、我々が時間を使って協議しても、それで終わってしまう。そして、他の団体に丸投げして終わりだということであれば、市の担当部署でやりなさいよということになると思う。今後、この新しい予算が、変更になる可能性があるのかも市に聞いてもらいたい。そうしないと地域協議会とは何なのか。協議だけして、具体的なプランニングまである程度立てて、他の団体で予算は申請してくださいとお願いするというのは、おかしなことになるので、「地域の団体と連携して」と言葉にするのはたやすいが、連携できないケースもある。地域協議会とは何かという声を多々聞くので、その辺も踏まえて、もう少し柔軟に市のほうで対応してもらえないか。新しい取組に対する予算案を自治・地域振興課に聞いていただければありがたい。

他に意見等を求める。

**【高橋邦夫委員】**

会長と似た部分があるかもしれないが、議会の説明会に出席した時に、総務常任委員会の代表の方が、地域協議会の性質が合併前の13区と合併前の上越市で異なっているとコメントされたが、自治・地域振興課はどのように考えているのか。地域協議会にどんなイメージを持っておられるのか。今、会長が言われたように、合併前の上越市の地域協議会は、自分たちに何の決定権もないということとを抱えている。それとは逆に、地域の活動団体と連携すると言いながらも、もともとそんな場面は全然なかったところに、急にこの地域活性化の方向性を出して取組を進めようということが、何かシステム

的に違うのではないか。13区はそれができているので、そのイメージを持って進めているのかと勘ぐらざるを得ない。3つの3本柱があって、その中から地域独自の予算を出すのだということを言っている割には、実際に有田区でできそうなものは、市がやっていく方法と、それから地域の活動団体が出していく方法しか、残念ながらないのではないかという気がしてならない。

#### 【中村センター長】

地域活性化の方向性の検討がなかなか難しいのではないかという意見かと思う。まず、地域協議会の役割は、実行部隊ではないので、例えば、団体と実働できる町内会長連絡協議会などと連携する。その団体が活動しやすいように、「何か問題はないのか」ということを聞いたりする地域の相談役だと認識している。地域協議会とすれば、13区は、確かに課題がはっきりしているところは、課題を解決することで地域を元気にしたり、地域活性化は見やすいかもしれないが、北部まちづくりセンターが担当している6区においても、地域の課題を絞りづらかったり、焦点を当てづらいようなところもあることは確かである。そんなところで、逆に今は、地域のいいところを見つめ直そうということで、どういうことをすれば地域が元気になるかを考えていただければというのが地域活性化の方向性だと思う。ただ、その手段に、予算は必ず付けると約束できない。春に、市の施策と方向性が違うような方向性を定めた場合には、市がその方向性に基づく取組を行うことは困難であるというお話をさせていただいたかと思う。地域活性化の方向性については、こういうことをしていけばとか、こういうことに着目して、地域を元気にできたらいいなというような、キャッチフレーズを決定していただく。これを28区全部で定めていただくという形になる。28区が定めた地域活性化の方向性で、予算が必要なものについて、必ずしも約束できるというものではない。ただ、地域としてはこうやったら元気になるのではないかというところを皆さんで共有していただくというところと、それを市に伝えていくというところが、作成の意義と目的になると認識している。

#### 【熊木会長】

今、地域自治の見直しに関する委員会でもやはり地域協議会が話題になっている。先日の委員会でも今の地域協議会で良いのかという意見を言ったが、どのように返ってくるかなと思っている。やはり、先ほど高橋邦夫委員が言われるように、13区は行政単位がそのまま移行したという経過があるので、意外とすんなりといっている。合併することによって一つの町が、地域協議会を作ったという形であり、作られた年代も違う。

合併と同時に13区がスタートして、残りの15区は何年か後にスタートしたので、システム化されていないことは確かである。地域で活動している団体と接触はできなくはないが、提言までいけるかという点、余計なお世話だと言われる部分もある。そういったことを市はどのように考えているのか。連携と言われるが、そんなに簡単なことではない。どこの区もそうだが、町内会長協議会が中心になって、まちづくり協議会を作ったりしているが、町内会の自治単位でコミュニティーを運営していくというのがベースになっているので、その兼ね合いを市のほうでどのように認識しているのかということがある。とりあえず、地域活性化方向性の協議で出された意見をまとめて、有田区の見解として出すのが近々の命題だと思うので、その方向で進んでいきたい。意見をもう一度整理してもらって出してもらおうということではどうか。

(賛同の声)

次に、資料No.2の今後の進め方について意見を求める。

**【高橋邦夫委員】**

今後の進め方の中で、1月から2月の間で地域の活動団体との意見交換となっていて、その下に地域の活動団体との意見交換の実施検討となっているが、この地域団体はどれくらいのことを考えているのか。地域協議会がどのように働きかけをするのか。その辺がよくわからない。地域の活動団体は、今まで地域活動支援事業に提案した団体という考え方なのか。

**【中村センター長】**

地域の活動団体をどのようにイメージしているかとの質問だが、地域活動支援事業に提案していただいている団体を想定している。意見交換は必ずしもやらなければいけないというものではない。地域協議会だよりで数は多くないが、地域の方の意見を聞いたりにしているので、地域協議会の中でまとめていくというのも一つの方法かと考えている。

**【熊木会長】**

構成要素は、資料No.1の要約ということになるかと思う。それに基づいて検討することになるかと思うが、これは文書にして出すのか。

**【中村センター長】**

資料No.1の中から有田区での地域活性化の方向性として、キャッチフレーズと具体的に挙げていただく4つから5つの構成要素を、それぞれの文書の形で最後はまとめていくという形になる。事務局のほうで、素案的なものを次回までに整理したいと思う。

**【熊木会長】**

各自で、12月中に整理した資料を読んでいただいて、構成要素の部分をも自分だったらこれとこれを入れたいということピックアップしていただいて、それを合わせてこちらのほうで、最終的に5つ決めるということによいか。

(賛同の声)

では、そのように進めていきたいと思う。

他の団体との意見交換についてはどうか。基本的に有田区地域協議会は、各団体の代表者も入ってスタートしていて、歴代引き継いでいるので、改めて協議するといっても、同じ人間が立場を変えているだけの形になろうかと思う。

**【高橋邦夫委員】**

この意見交換のイメージは、その地域団体が有田の地域活性化のために自分たちの団体に何ができるかということをお話するような形なのか。そういう気がなかったら意見にならないわけだから、地域協議会のほうからは、有田区の地域活性化に向けて、お宅の団体はどんなことを提案できるかという話かけをして、うちの団体はこんな提案ができるという形か。そうでないと意見交換にならないと思うが、そんなことを想定しているのか。

**【中村センター長】**

団体としてどんなことができるか、どういう方向性でいきたいか、地域をどうしていきたいかも含めて、話し合っただけによいと思う。団体によって活動している分野があるので、その分野に話題が向いていくことはあるかと思う。できれば、その分野だけではなく、有田区全体を元気にするためにというところを頭に入れて、意見交換できればいいかと思うが、逆にそこにポイントを置いた意見交換もあるかと思う。

**【高橋邦夫委員】**

地域の団体は、地域活動支援事業を提案していた団体を想定すると、自分たちの組織の活動する目的がある。必ずしも有田区全部を対象にしているということはない。今までの過去の提案団体を見ていると、例えば、直東学園は、区内の5つの学校の子どもたちを中心にした教育課程について特化した提案をしているし、350同友会は、国道350号線周辺の企業が、地域貢献するために提案している。福祉の会は、有田区全体の高齢者福祉や子育て支援に関わることについて考えているというように、非常に部分的なものである。今、事務局が言われたような全体を地域活性化しようという話は、

今まで考えたこともない団体に、そういうことを要望しても、団体も困ると思う。逆に、有田区のこの部分については、うちの団体はこんな提案ができるという話なら、できるだろうし、そのことについて、それを有田区全体として、この部分についてはこの団体をうまく活用すれば、自分たちの進めている方向性に合致するのではないか。一つでは駄目だけでも、いくつか合わせた団体の方向性としてまとめていかないと難しいのではないか。個人としては持っているかもしれないが、団体としてそんな考え方を持って組織しているわけではないというのが、自然なのではないか。

#### 【中村センター長】

事務局としては有田区全体をと思っているが、実際は高橋邦夫委員が言われるようなことになる。確かにその団体が目的を持って活動されているので、その団体に有田区全体の課題を考えてもらうのは無理かもしれない。例えば、エリア的に取り組む部分だったり分野的に取り組む部分であったり、そういういろいろな団体から意見を聞くということも有りだと思う。その辺りを、また意見を参考にして最後は地域協議会で最終案をまとめていっていったらと思う。

#### 【熊木会長】

細かい点を話し合うということになると、この資料No.1を踏まえた、ある程度の方向性とか結論が出た段階で、この地域協議会に参加していないグループないし団体に関わる部分ができたと時点で、声掛けをして意見交換をするということでしょうか。今の段階で、大上段に構えると相手から「何を話すの」と言われてしまう。今のところ、どういう形になるかがわからないし、方向性も出ていないことなので、ある程度方向性が見えれば、どういう団体が絡むのかが見えてくるので、その時点で、実施時期、実施内容等を協議したいと思う。

#### 【渡邊瑞穂委員】

もしできるのであれば、みんなで集まって紙を広げて、ポストイットを使って、どんな地域にしていきたいか意見を全部出し合って、これだったらできるというような本当の意見交換のようなことができればと思う。意見交換に皆さん来てくださいと声をかけ、いろんな意見を吸い上げて、それから、地域協議会で方向性を決めていくというやり方がいいのではないか。ここまでできた段階で、ここからどう続けていくのかが話し合われた内容で、もちろんいいと思う。市民の意見を吸い上げるとか、いろいろな団体の活動に耳を傾けるというのは、誰がやるのか、どうやってやるのか、お金の問題もあると

思うが、今、一人一人みんながどんな活動をしていて、どういったことが行われていて、さらにどうやっていきたいのか、みんながどう考えているのかを意見交換をすることなのかと考えながら聞いていた。

#### 【熊木会長】

意見交換という今の意見はもっともである。地域活性化の方向性を作る前に意見交換をやった上で作るというのが本筋で、今後踏まえていかななくてはならない。地域協議会がなにをするか大前提がはっきりすれば、それも必要になってくると思う。今のところ、話し合っても何の効果も見えない、やっても意味がない組織だと言われてしまうと、苦労するだけで何も報われない作業になるので、ある程度方向性や組織がしっかりした段階で、地域協議会等も進めていければと思う。

次に「その他」について事務局へ説明を求める。

#### 【小川係長】

次回の地域協議会は、1月下旬くらいの開催を考えている。会長と日程調整の上、日程が決まり次第、皆さんにご連絡したいと思う。

#### 【熊木会長】

- ・会議の閉会を宣言

#### 9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

#### 10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。